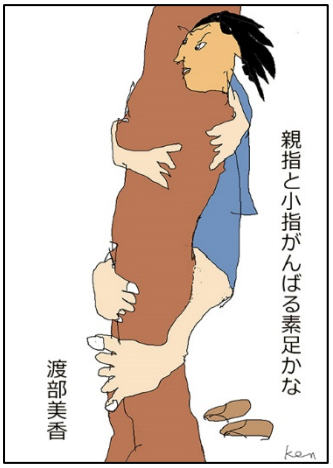
■今月の特選句

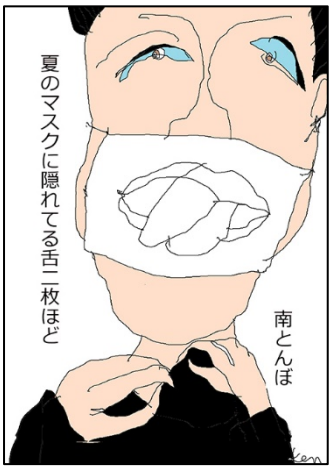
2020 年 8 月



親指と小指がんばる素足かな

渡部美香

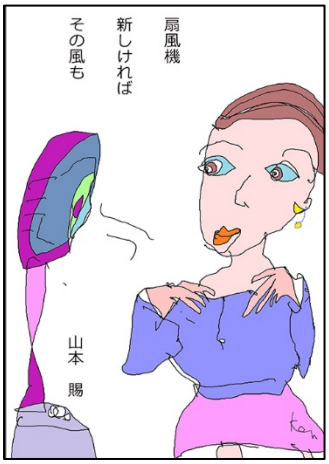
例えば、歩きづらい砂浜を素足で歩いてごらんなさい。親指と小指の存在の大きさに気付くでしょう。黙っているが頼りになる奴らよ。



夏のマスクに隠れてる舌二枚ほど

南とんぼ

コロナのせいで、マスクは冬だけのものではなくなった。マスクをしていると人相も判別しにくいが、悪人にとってはアラを隠せて好都合である。



扇風機新しければその風も

山本　賜

感じたことを書くのが俳句である。扇風機を新しくしたら風も新品になったと感じた。これは非科学的であるが、それこそが詩である。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

襟立てて不良のつもり夏のシャツ

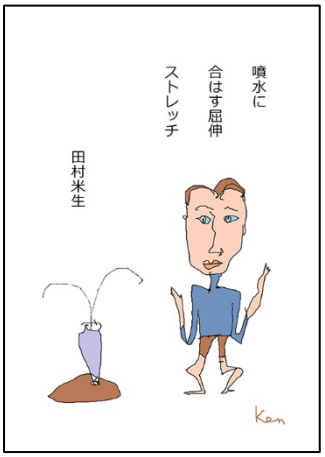
吉川正紀子

人間の心理とは不思議なもので、善人に見られたいと思ったり、ちょっとワルに見られたかったり。ささやかな変身願望をシャツの襟で叶えたね。

身重とも見え枇杷の種大きくて

桑田愛子

枇杷は種が大きくて果肉が少ないので裏切られたような気分になる。手に載せて眺めながら、実の大きさ、重みのほとんどは種だと気付いた。



噴水に合はす屈伸ストレッチ

田村米生

滑稽の要素の一つにナンセンスがある。ストレッチの屈伸を噴水に合わせる事の何が楽しいのか説明する必要はない。ずばり、ナンセンスの可笑しさ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

速乾の干物になりそう炎天下　青木輝子
・・・汗が適度な塩味となり

隠すより誘ふが本音麻暖簾　峰崎成規
・・・粋な感じのお店に見せて

古書店のにほひに紙魚は目を細め　小林英昭
・・・終の棲家と決めて幾とせ

早乙女歴六十年姉さん被りして　稲葉純子
・・・よくあることで齢は訊くまい

我まゝと思はれ悔しえごの花　伊藤浩睦
・・・屁糞葛はもつと気の毒

物の怪に透かし見らるゝ更衣　吉原瑞雲
・・・それは自意識過剰じやないか

ウイルスをやりすごせるや蚊帳の内　荒井　類
・・・昔人間蚊帳に逃げ込む

喉走る梅干し茶漬け冷製の　上山美穂
・・・暑い時にはこれが一番

チューリップわざとよそ向く奴がいる　久我正明
・・・自分を花にたとへ擬人化

羽根布団を煎餅布団に更衣　太田史彩
・・・羽根の蒲団は半年蟄居

荒梅雨のなぶり殺しの無名草　井口夏子
・・・無名のゆゑに怖いものなし

プール入り古稀の出腹に水かけて　椋本望生
・・・若いもんには負けられんのよ

言はれなき悪女を演ず罌粟の花　村松道夫
・・・それがほんとはかなりのワルで

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

道をしへが迷はぬやうに道しるべ	相原共良
つばくらめ左官の技を極めたる	相原共良
一夜限りの逢瀬とあれば明易し	相原共良
ひとり寝に竹婦人とはあほらしい	青木輝子
鬼虎魚不細工なれど珍味なり	青木輝子
番犬に蟻くつ付ひて両者無言	赤瀬川至安
鴉やらほととぎすやら啼ひて朝	赤瀬川至安
梅雨繁し秋田犬眠りつぱなし	赤瀬川至安
伝言板に好きだと書きし夏の果	荒井　類
野馬追の神旗を見つむる野次馬	荒井　類
歩み来て蝙蝠程の影纏ふ	井口夏子
ふと思ふ明日の命青田風	井口夏子
喜怒哀楽マスクの中の阿修羅哉	池田亮二
よく見れば着ているごとし水着ヴィーナス	池田亮二
虫喰い葉茎あらはなる半夏生	石塚柚彩
出張買取でうな重の特上に	石塚柚彩
窃盗罪の看板目立つあじさい園	石塚柚彩
罌粟の花ポピーはハッピーカップルも	泉　宗鶴
棒構え手心遊び心西瓜割	泉　宗鶴
虫なのだ爬虫類なのだ縞蜥蜴	泉　宗鶴
御用だと自粛警察夏マスク	伊藤浩睦
飛ばされまいと頭を押さえ青嵐	伊藤浩睦
焼酎や無観客試合はじまりぬ	稲沢進一
夜の秋今日べきは明日にせむ	稲沢進一
かき氷崩れるまえに消えにけり	稲沢進一
紙魚が喰ふ推理小説の手掛かりを	稲葉純子
涼しさを自身は知らず扇風機	稲葉純子
写真家に「邪魔」と言ひたき四葩前	井野ひろみ
紫蘇の葉をレースに仕上ぐ小さき虫	井野ひろみ
食べ頃をメロンの尻に聞いてみる	井野ひろみ
お日様が作ったくす玉紫陽花は	上山美穂
思ひ出の中のヒーローカブトとクワガタ	上山美穂
濁流をカフェオレなんて何てこと	梅野光子
雀の子朝の散歩の顔なじみ	梅野光子
さくらんぼブローチにして女の子	梅野光子
入場券買いて駅蕎麦冷素面	遠藤真太郎
手花火を恐れて熊の死んだふり	遠藤真太郎
落雷に脳骨外れ易き歳	遠藤真太郎

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

キスの日が五月二十三日なんて	太田史彩
目が合つて忘れてくれと油虫	太田史彩
夏の月立ち飲みうまいぞコロナ飲め	大林和代
ころころと山紫陽花の皆笑ふ	大林和代
うごかねば石仏になる木下闇	大林和代
梅干のご機嫌取りてふ大仕事	小笠原満喜恵
バスの旅さくらんぼうの種も食べ	小笠原満喜恵
鵜篝を焚けばたちまち鵜が騒ぐ	小笠原満喜恵
烏夏痩せ鳶に油揚げさらわれて	岡田廣江
生(あ)れたての蝉の嬰児(みどりご)腹ぬくし	岡田廣江
豪雨でも軒下ならばと蝸牛	岡田廣江
下灘や補陀落浄土の夕茜	金城正則
宇和島の風胸に浮け遍路行く	金城正則
お恵ちゃん「好き」とサイダー瓶に書き	金城正則
自由なし自縄自縛のハンモック	久我正明
採りたての夏草ですとレストラン	久我正明
宇宙遊泳茅の輪をくぐるとき	工藤泰子
羅を鎧ひ乗り込む昇降機	工藤泰子
朝の日の木火金水土用かな	工藤泰子
チンアナゴみたいに出入り梅雨晴間	桑田愛子
ジャムなだらかに初夏のパンにかな	桑田愛子
いまならば生でもいけるこの夕焼	小林英昭
焼酎に鼻があぐらをかきはじむ	小林英昭
身の熟(こな)し声まで変はるサングラス	壽命秀次
ストリップの様に脱ぎ捨つ竹の皮	壽命秀次
コロナ禍や尺取の様ゆとり欲し	壽命秀次
かたくなに守る巣ごもり蟻地獄	白井道義
三密の一DKやつばめの子	白井道義
百歳に先を越されて更衣	白井道義
乳も足り寝息も静か団扇風	鈴鹿洋子
梅雨長し子と折り紙の展開図	鈴鹿洋子
曇り空多くを語らない殿様蛙	鈴木和枝
勢いよく閉ざす浅蜊あなたに決めた	鈴木和枝
紫陽花でつかく咲かせ味噌屋は休み	鈴木和枝
客席も傘さしており村芝居	髙田敏男
向う岸ウインクしてる姫蛍	髙田敏男
元気です飛ぶに飛べない羽抜鶏	髙田敏男

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

夏までにヤバイ書類を須可捨焉乎	高橋きのこ
蚊に告ぐるただいま御法度ハグとキス	高橋きのこ
コロナ禍やころがり癖のとれぬ夏	高橋きのこ
負けん気の涙を隠しサングラス	竹下和宏
留守勝ちの家に無口な冷蔵庫	竹下和宏
バスで来て雷鳥探すハイヒール	竹下和宏
ポッキーを食べた言訳梅雨しとど	龍田珠美
住職の掘り起こしたる兜虫	龍田珠美
水無月や渡船と共に引退す	龍田珠美
十薬の密生するは大丈夫	田中　勇
七変化心霊治療の気を送り	田中　勇
旅人に挨拶するや夏の蝶	田中　勇
山笑ふ二度と泥鰌は現れず	田中早苗
千金を望めど春の夢ならむ	田中早苗
軽鴨の子のお通りに車止め	田中早苗
まだ見つからぬ首長を隠すシャツ	田中晴美
ゆつくりと噛み大粒のさくらんぼ	田中晴美
腰痛は待っていたらし梅雨どきを	田中晴美
木下闇仔猫のしっぽみぎひだり	谷本　宴
さくらんぼ太宰の愁い食べちまえ	谷本　宴
夏の海胸のパッドがずれてをり	谷本　宴
夕端居妻との間隔二メートル	田村米生
日めくりは土用の丑やカレー食ふ	田村米生
気骨あり身も真白なる祭鱧	月城花風
雅なる人もスイカの種ほじる	月城花風
リモコンの手に優先権扇風機	月城花風
二波三波夏至のコロナのかくれんぼ	土屋泰山
すいすい渡る掃除機の白南風は	土屋泰山
七夕やテレビ電話で紅くなり	土屋泰山
小暑かな少々の事我慢する	西をさむ
青田風日本列島鼾かく	西をさむ
太郎次郎うなぎを釣に出掛けたり	西をさむ
五月雨がゲリラと呼ばれ御立腹	花岡直樹
彦星や三密避けてのステイホーム	花岡直樹
梅雨コロナ早く帰れとビアせかす	花岡直樹
シャッターをきれば不動の滝となり	久松久子
綱渡り見せてくれたる雨蛙	久松久子
更衣老いて益益派手にかな	久松久子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

夏料理白磁に呉須の砥部焼に	日根野聖子
如才無く世渡りをしてところてん	日根野聖子
かいつぶりあらぬところに出る特技	日根野聖子
コロナ禍を縺れてをりぬ蝶々は	廣田弘子
自粛して通販によるころもがえ	廣田弘子
花柄のマスクの下の美形かな	廣田弘子
更衣みんな並べてやつと出来	藤森荘吉
ワイヤレスがウイルスと見え梅雨最中	藤森荘吉
井の中に蛙居るかと覗き込む	藤森荘吉
緊急事態解除気疲れの初夏	細川岩男
鰻飯コロナ太りを気にしつつ	細川岩男
ステイホームすててこ姿メタボ腹	細川岩男
粛の字を確と覚えて立夏かな	南とんぼ
髪洗う前頭前野念入りに	南とんぼ
太宰集致死量までの書を曝し	峰崎成規
割るる背の痛みは蝉か空蟬か	峰崎成規
走り出すフルチン真夏の蒙古斑	椋本望生
穿つて見つけ出したる蝉の糞	椋本望生
君の名を付けるに至る伊予の白百合	向田将央
仲直りしたいできない虹見たい	向田将央
ちびゴジラ昼寝の顔のあどけなし	向田将央
父の日や妻に叱られ息子にも	村松道夫
おまえもかコロナの毒に竹婦人	村松道夫
夏負けや段差の多き家に住み	百千草
泡吐いて我と語るや水中花	百千草
梅雨晴のおひさま月に食はれけり	百千草
七変化の果ての紫わたくしは	森岡香代子
合唱の前にうがいや土蛙	森岡香代子
あの人の唇恋し置きマスク	森岡香代子
汗吸つてたちまち中古夏帽子	八木　健
ステップがスキップとなる麦稈（わら）帽	八木　健
少年や耳学問をして端居	八木　健
お揃いのボーダー烏賊の姿焼き	八塚一青
てるてるがうなだれている大暑かな	八塚一青
鳴かずにはいられぬ夜のアマガエル	八塚一青
肉を焼くキャンプ真昼の血糖値	柳　紅生
舐められて青大将に及び腰	柳　紅生
通行のものが主役に蟻の道	柳　紅生

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

蓄財に縁なき暮らしなめくじり	柳村光寛
物忘れ猛暑の所為で許される	柳村光寛
過ぎたるに及ぶものなし草むしり	柳村光寛
半夏生マスクを外し半化粧	山岡純子
薔薇という字のかけぬ人多かりし	山岡純子
子燕のよたよた飛びを応援し	山岡純子
コロナ禍に弱り目祟り目梅雨出水	山下正純
ウィズコロナひとみ勝負のマスク人生	山下正純
武者人形刀を抜かずお蔵入り	山下正純
はちの字にくぐるが楽し茅の輪かな	山田真佐子
宿敵の蚊にまとわれる寝入りばな	山田真佐子
七転び八起きがテーマ夏の草	山田真佐子
薔薇咲いて肘がこんなに尖つて	山本　賜
石楠花のベンチをめざす老夫婦	山本　賜
長時間化粧したのに半夏生	横山洋子
葉隠れの青梅吾を窺ふや	横山洋子
コロナの世三密守りお施餓鬼会	横山洋子
その色を田水に映し梅雨の月	吉川正紀子
熟れきつてをり山裾の放置枇杷	吉川正紀子
歓喜して夏野領け行く一輌車	吉原瑞雲
夏きざすアベノマスクをする勇気	吉原瑞雲
胎動のガツンと骨に昼寝覚	渡部美香
行き先は白夜の古城ひとり旅	渡部美香
ゴミ袋十五並ぶや草いきれ	和田のり子
姥（ひ）の声や李も桃も桃のうち	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。